

新型コロナで痛感した 糖尿病の恐ろしさ

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医
医療法人財団百葉の会 銀座医院
院長補佐・抗加齢センター長

新型コロナ感染で、突然意識を失って倒れたIさんのケース

患者氏名	I・S 様	年齢	59歳	性別	男性	現病歴	糖尿病
------	-------	----	-----	----	----	-----	-----

糖尿病の方は免疫力の低下により、感染症になりやすく、かつ重症化しやすい傾向にあります。新型コロナウイルスに関する例です。ここ1年ほど診させていただいているIさんは、その最たる例でした。

Iさんは空腹時血糖値が145mg/dL、ヘモグロビンA1cが7.8%と決して良好なコントロールとはいえませんが、これといった自覚症状がないことから、生活習慣の改善には積極的でなく、お薬のみでコントロールされていきました。

ところが、コロナ禍の今年の春頃、ご友人との会合の後で突然呼吸が苦しくなり、意識を失い倒れてしまったのです。

気づいたときはベッドの上で、PCR検査の結果、新型コロナウイルスの陽性と診断されました。重症患者の最後の切り札とされるECMO（人工心臓装置）を使う一歩手前だったそうです。幸い対応が早かったため一命を取り留め、しばらくの入院期間を経て無事に回復されました。

その数か月後、受診に來られたIさんを見て

驚きました。10kg減量され、血糖値は117mg/dL、ヘモグロビンA1cは6.2%にまで下がっていたのです。

生死に関わる体験をされ、さすがに「糖尿病って本当に怖いんだ」と痛感し、お酒もやめて食事療法に取り組み始めたのだそうです。

糖尿病の方の中には、合併症があっても感じにくかったり、無自覚血糖になったりするケースもあります。くれぐれも過信せず、ご自分の体としっかり向き合っていたいただきたいのです。